

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「徒然草 〽亀山殿の御池に〽」 問題

亀山殿の御池に、大井川の水を①まかせられんとて、大井の土民に②仰せて、水車を

③造らせられけり。多くの錢を④賜ひて、数日に⑤営み出だして、⑥掛けたりけるに、

大方⑦廻らざりければ、とかく⑧直しけれども、つひに⑨廻らで、いたづらに⑩立てり

しけり。

さて、宇治の里人を⑪召して、⑫こしらへさせられければ、やすらかに⑬結ひて⑭参らせ

たりけるが、⑮思ふやうに⑯廻りて、水を⑰汲み入るゝ事めでたかりけり。

万に、その道を⑱知れる者は、やんごとなきものナなり。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「徒然草 〽 亀山殿の御池に」 解答

亀山殿の御池に、大井川の水を^①まかせ^{ラ四⑥}せられ^{サ下二⑥}んとて、大井の土民に^②仰せて、水車を

造ら^{ラ四⑥}せられ^{サ下二⑥}けり。多くの錢を^④賜ひて、数日に^⑤営み出だして、^⑥掛け^{カ下二⑥}たり^{完了}けるに、

大方^⑦廻ら^{ラ四⑥}ざり^{打消}ければ、とかく^⑧直し^{サ四⑥}けれども、つひに^⑨廻ら^{ラ四⑥}で、いたづらに^⑩立て^{タ四⑥}サリ

し^シけり。
過去

さて、宇治の里人を^⑪召して、^⑫こしらへ^{ハ下二⑥}させられ^{サ下二⑥}ければ、やすらかに^⑬結ひて^{ハ四⑥}参らせ

たり^タけるが、^⑮思ふ^{ハ四⑥}ッやうに^{比況}廻りて、水を^⑰汲み入るゝ事め^{ラ下二⑥}でたかり^{過去}けり。

万に、その道を^⑱知れ^{ラ四⑥}る者は、やんごとなきもの^ナなり。
断定